

<みうらまちこボーカルコンサートの多彩な楽しさ>

最近ではジャズボーカルがブームになって、ジャズを歌う人、ボーカルのライブや CD を聴く人が非常に増えています。東京周辺だけでなく全国的に広がり、各地から東京に進出するプロ歌手も見かけます。

歌の世界は流行歌から J-POP、シャンソン、ラテン、タンゴなど多くの種類がありますが、ジャズボーカルは本来アメリカのポピュラーソングやブルースを原語でジャズ的に歌うのが常道ですから、発音やジャズのセンスが優れていなければ成り立ちません。或る意味で高度で難しい歌であるだけに、これを上手くマスター出来れば、非常にお洒落にも聞えるのが魅力です。

今回、自分のグループでは初めて九州を訪れる、みうらまちこは沢山いるジャズボーカリストの中でも、基礎的な英語の発音に秀でている上に、ジャズ的なリズム感覚にも優れている数少ないシンガーですが、更に彼女ならではの個性的な歌唱法を持っているのが大きな魅力であり、聴きどころになっています。

長年外人の秘書役で鍛えた英語の発音はほぼ完璧で、しかも声量が抜群に出るので、時として米人歌手が歌っているような錯覚を感じさせる程です。しかし一方デリケートな日本女性的な情緒も持ち合わせて、バラードをしっとりとした低い声でやさしく感情表現する術も心得ています。

レパートリーは、本筋のアメリカのスタンダードを中心にしながら、多彩な種類の歌を加えて、バラエティに富んでいます。最近のレパートリーを紹介すると、先ず、ジョージ・ガーシュインの「ス・ワンダフル」やリチャード・ロジャースの「ブルー・ムーン」、コール・ポーターの「ソー・イン・ラブ」などで、歴史の古いスタンダード・ソングの王道的なメロディーを軽妙に歌います。ジャズの神様といわれるデューク・エリントンの作曲でジャズ歌手が好んでとり上げる「スイングしなければ意味ないね」や「ソフィスティケイテッド・レディー」やモダン・ジャズの名曲「ラウンド・ミッドナイト」などは、ジャズメンの伴奏も盛り上がります。アメリカの歌でも越路吹雪が日本語で歌ってヒットした「ラストダンスは私に」や「スタンド・バイ・ミー」「男が女を愛する時」「コーヒー・ルンバ」などポップなオールディーズ曲も得意です。

フランス語も上手なので、10月の季節に因んで「枯葉」をシャンソン風に歌う予定です。九州地域から南に思いをよせて沖縄の歌も「イラヨイ月夜浜」と「島唄」を準備しています。その他「ゴッド・ファーザー」のテーマ「スピーク・ソフトラリー・ラブ」を何とシチリア語で歌う、という芸もお聞かせする予定です。

歌の間に一流のジャズメンの揃った MACHIKO グループ:ピアノトリオの3人(田村和大ピアノ、山下弘治ベース、藤井 学ドラムス)によるバンド演奏も入ります。皆最高の実力者で、ドラムスの藤井 学は、みうらの歌にコーラスを付ける芸もお聞かせします。

これだけの多彩なジャズの面白さを堪能出来るライブは滅多にありません。

お楽しみ頂けること間違いなしです。

(終)

2014.6.28